

「高校生平和共同宣言」の作成にむけて～ニューヨーク国連本部へ～

本校は、本年7月28日（金）にブリックホールにて高校生国際平和会議を主催します。ハワイ、オランダをはじめとする海外や、国内の中・高校生約1000名が参加予定です。その際に、高校生が主体となり作成した多言語の「高校生平和共同宣言」を発表する予定です。

その宣言文についての意見交換を行うため、平和共同宣言作成チームのリーダーを務めている西田桃子さん（高3ー6）が、3月4日（土）から7日（火）の日程で、アメリカのニューヨーク国連本部を訪れ、中満泉事務次長をはじめ国連職員の方々と対談しました。今回の訪問には、引率のマット先生とともに、本校の卒業生で、高校生平和大使を務めていた、安野伊万里さんにも同行していただきました。本フィールドワークについて、西田さんの報告を記載します。

ODA 職員とディスカッション

国連を訪れた際、最初にODAのメンバー7人とディスカッションを行いました。ODAとはOfficial Development Assistanceの略称で、開発に必要な資金、技術、能力などを開発途上国に対し提供する取り組みを行う機関です。今回のディスカッションには、イギリスや韓国など様々な国籍の方が出席されました。初めに、私から宣言文についてのプレゼンテーションを行い、コメントやアドバイスをいただきました。



宣言文の良い点として、核兵器廃絶についての内容があげられました。核兵器廃絶は国家間や政治的関係性が絡む大きな問題ですが、私たちは身近なところから取り組んでいきます。私たちの宣言文では、核兵器廃絶につながる、私たちができる行動として、「隣の人を笑顔にすること」をあげています。私たちは、信頼関係を構築することが核兵器廃絶の第一歩だと考えています。誰かを笑顔にするとき、そこには信頼関係が生まれます。

信頼関係を構築する機会が広がっていくことで、世界に連帯感が育まれ、核廃絶へとつながっていくという構成で宣言文を作成しています。これについて、職員の方からは、身近でありながら、全世界に通用する取り組みだとお褒めの言葉を頂きました。グローバルな世界において、言語の違いは時折障壁となってしまいます。しかし、笑顔は誰もが持つ共通のものです。言葉を介さずとも、核兵器廃絶に取り組めるこの考えは素晴らしいものだとの評価をしていただきました。



アドバイスとしては、否定的な取り組みだけにしない、「from “must not” to Let’s」という視点を教えていただきました。例えば、核兵器を使用しない、差別をしないなど、今の行いを否定する言葉だけでは、それを辞めたとき、どんな効果があるのか、どのように次につなげることができるのか、未来を創造するのが難しくなってしまいます。

しかし、否定的な言葉だけでなく、身近な人を笑顔にしよう、新たな取り組みを始めようといった前向きな言葉をあげることで、それによってどんな未来がつけられていくか見えやすくなり、より行動に移しやすくなるというアドバイスを頂きました。（第7号に続く）

「自分がやりたいことを進める時ほど、他の人の考えに耳を傾ける」



国際連合日本政府代表部政務部の草野佑太（くさの ゆうた）様とお話をさせていただきました。草野様からは、グローバルな世界において大切なことを2つ教えていただきました。

1つ目は、「自分がやりたいことを進める時ほど、他の人の考えに耳を傾けること」です。何かやりたいことを進める時、自分だけが利益を得て、周りが不利益を被ることがあってはなりません。周り話し合いをして、より多くの人が納得する形が求められます。

2つ目は、「グローバルな世界で共通認識を持つこと」です。今の課題は何か、どのような取り組みが求められているのかなど、世界全体で行動を起こす際には全体での共通認識が必要です。グローバルな世界では、集団としての規模は大きいですが、国連での話し合いにおいて、共通認識を持つことはとても重要になります。

ただ、この2点は、国連や国家間の外交に限ったことではないと思います。学校や会社など、私たちの身近なところでもこれらはとても重要なことです。

中満泉 国連事務次長と対談

国際連合事務次長の中満泉（なかみつ いずみ）様とお話をさせていただきました。中満様は日本人女性で初めて国際連合事務次長に就任され、軍縮担当上級代表を務めておられます。

中満様からは「高校生がこのような活動を行っていることを大変嬉しく思う。世界には様々な課題があり、世代を超えた協力が必要になる。今後の活動に期待している。」と激励の言葉をいただきました。大変ご多用ななか、中満様とお話をさせていただくという、貴重な時間を過ごすことができました。（第8号に続く）



私たちの宣言文が持つ意味

ODAに20年以上務めていらっしゃる益子たく（ましこ たく）様とお話をさせていただきました。益子様から、私たちの宣言文には、大きく3つの他の宣言文とは異なるポイントがあることを教えてくださいました。

1つ目は、広島と長崎が共同して作っているということです。今回の宣言文は、広島市立舟入高校と協働して作成しています。広島と長崎は、78年前に原子爆弾が投下された場所です。これまで被爆地として、核兵器廃絶や世界平和の実現を訴え続けてきた2つの地域に住む私たちが共同して、平和を訴えることは大きな意味とメッセージ性があります。

2つ目は、高校生が作っているということです。これからの未来を担う私たち高校生が発信するメッセージは今後の世界を創っていくものです。

3つ目は、何の組織にも属さない者が作っているということです。これは2つ目にも関連することですが、私たち高校生は企業や政府など政治的立場が存在するものに属していません。

益子様は、そんなまさらで何の政治的影響を受けない高校生だからこそ主張できることがあるとおっしゃいました。国際連合で宣言文を作る時、何かしらの意見を持っていても外交的立場や政治的立場を考慮した結果、それを発言することができなかつたり、取り入れられなかつたりすることがあるそうです。その点、政治的立場を考慮する必要のない高校生には大人にはない発言力があるのです。今の世界に訴えたいことは、なんでも主張することができる強みを活かしてほしいと益子様からお言葉をいただきました。



国連訪問を終えて～私たちのすべての行動には意味がある

今回のアメリカ訪問では、高校生平和共同宣言に関連したことだけでなく、多くの学びがありました。今回のご訪問に携わっていただいた全ての方々に、心より感謝申し上げます。

私は、国際平和を実現するために、何かを変えようと動く国連職員の方々にとても感銘を受けました。国連で働く方は、国際問題を当事者として捉え、解決のために日々行動を起こしています。

高校生である私たち自身も、これからの未来を担う者として、そのような姿を見習っていくことが必要であると感じています。今回の訪問で頂いたアドバイスをもとに、高校生平和共同宣言を、より多くの人の心に響くものにしていきます。

そして、この宣言文を通して、私たちのすべての行動には意味があること、私たちの行動には世界を変える力があることを世界に発信し、国際平和の実現に貢献します。



